

農村景観 応援団 藤本団員 野中団員 と語る



下高末棚田保全組合の皆さんと意見交換を行う
農村景観応援団 藤本団員(左)と野中団員(右)

将来の世代に何か残したい

地元

高齢化や担い手不足など、下高末地区においてもいろいろな悩みを抱えています。悩んでいても仕方がない、将来の世代に何かを残したいという想いで、里山保全や都市住民との交流活動に取り組んでいます。

地域活性化に特効薬はないと思いますが、今後どのような取組が必要になってくるでしょうか。

野中団員

地区の皆さんのお話を伺って、高齢化問題の深刻さを改めて痛感しました。

集落の活性化は大変ですが、このまま集落が荒廃しても仕方がないと諦めている人ばかりではないと思います。

集落の皆さんが、それぞれ可能な範囲で地域づくりに携わっていくことが、まずは大切ではないでしょうか。

下高末地区であれば、まずは主産業である農業の活性化が大切です。

これまで都市住民との交流に積極的に取り組んでおられるので、さらに一歩踏み込んで、農産物の直接販売等を行えば、収益増加も期待できると思います。

また、都市住民が田舎暮らしに注目し始めたなかで、農村側としてどのように受け入れ態勢を整えられるのかも重要です。

団塊の世代でも二地域居住が注目されています。この方々を受け入れられるように、空き家の整備を検討してみたいかがでしょうか。

藤本団員

私は栃木県在住ですが、栃木県では県主体のボランティア組織があり、農作業受委託の仲介事業を行っています。

地元住民は、ボランティアに来てくれた若者にお昼ごはんを提供するのですが、今の若者は、意外とこういった活動に興味を持っています。

農業や、田舎暮らしに関心のある人たちをうまく取り込める仕組みづくりを始めてみてはいかがでしょうか。



炭焼き体験や、しいたけの原木栽培体験を行うために棚田保全組合の皆さんが整備した施設を視察し、お話を伺いました。

新しい資源を創り出す

地元

下高末棚田保全組合では棚田オーナー制度に取り組んでいます。

都市住民の方々に里山の楽しさを体験していただけるよう、炭焼きや、しいたけの原木栽培といった体験メニューを用意したところ、非常に好評です。

藤本団員

地域の活性化には二つのアプローチがあると思います。一つは、地域に昔からある資源を活用する方法、もう一つは、地区に新しい資源を作り出す方法です。

下高末地区では、積極的に新しい資源を創りだしておられる姿が印象的でした。

野中団員

地域資源が増えてくると、体験メニュー同士が組み合わさって、活動に幅が出てきます。

手作りの炭で、収穫したての野菜やしいたけをバーベキューにしてみたり、この辺りの山もイノシシが多そうだから、肉も調達できますね(笑)。



下高末棚田保全組合及び矢掛町内農業者の皆さん

無理をせず！楽しく！

地元

都市住民との交流は、やりがいがある反面、負担となる部分が多いのも事実です。活動を継続するためには、どのような姿勢で取り組んでいくといいでしょうか。

藤本団員

まずは、地元住民自らが楽しむことが一番です。活動が義務的になってくると、運営側も苦痛を感じるし、訪れた人も素直に楽しめなくなってしまうです。

無理をせず、楽しく活動できる範囲で継続することが大切です。

また、都市住民に継続的に訪れてもらうためには、地区をきれいに保つことです。ごみ拾いは単純なようで重要ですので、地区のひとりひとりが日頃から取り組んでいただきたいです。

野中団員

何事も無理をはいけません。八十%くらい出来たらよしとすること。中々百%にならないくらいの方が活動を長続きさせることができます。



水車小屋は地区住民のお手製

● 地元住民のコメント

活動を継続することは、立ち上げとはまた違った難しさがありますが、下高末地区を気に入って訪れてくれている都市の方々を大切にして、活動を継続していきたいと思えます。

● 農村景観応援団 藤本団員のコメント

近年は、農業や田舎暮らしに興味を持つ都市住民が増えてきています。農村を求める都市住民の目にとまるような情報発信にも取り組んでみてください。

● 農村景観応援団 野中団員のコメント

下高末地区では、積極的に都市住民との交流活動が行われており、大変素晴らしいと思えます。活動を長く継続していけるよう、肩の力を抜いてぜひ頑張ってください。